

南幌町

0329 長岡 竜洋

1. 南幌町の概要

1.1 南幌町の町章

昭和 37 年(1962 年)5 月 1 日、町制施行により「幌向村」から「南幌町」と呼び名が改められ、村から町となった。これに伴い、2 年後の昭和 39 年(1964 年)6 月 10 日、町章が制定された。この時、南幌町は「みなみほろ」と呼ばれており、「みなみほろ」を図案化したデザインに決められた。「みなみほろ」のカタカナを使って円を描き、町の安定と町民の融和を表し、さらに夕張川・千歳川・石狩川の 3 川に囲まれた、地形を象徴した作品に決まった。

図 1 南幌町の町章



出典：南幌町 HP

1.2 地名の由来

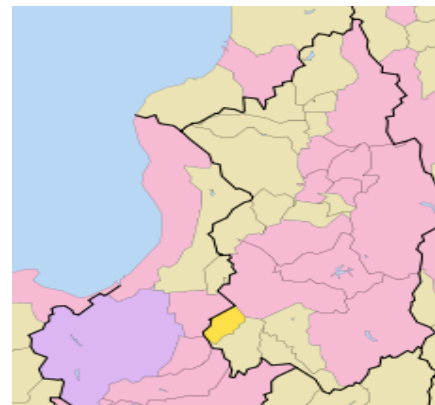
南幌町の名前の由来は、その前身である幌向村が「湾曲して緩やかに流れる所」からアイヌ語でポロモイと呼ばれることから「ほろむい」と呼ばれており、その南部に位置していたので、町制施行以降、南幌と呼ばれている。

2. 地理と歴史

2.1 地理

南幌町は、北海道の中央部よりやや西南端の石狩平野に位置し、空知総合振興局に属している。川に囲まれた平地で、西を千歳川、南東を旧夕張川、北を夕張川が流れている。隣接している市町村には、東北は岩見沢市栗沢町、東南は旧夕張川を隔てて長沼町、西南は千歳川を挟んで北広島市、江別市がある。黄色く表示されているのが南幌町である。

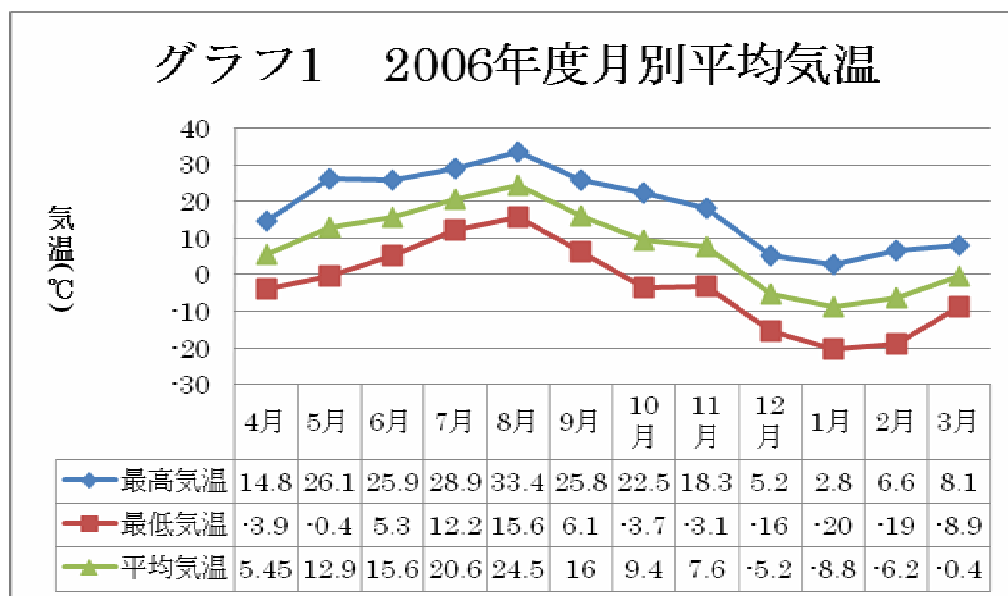
図 2 南幌町の位置



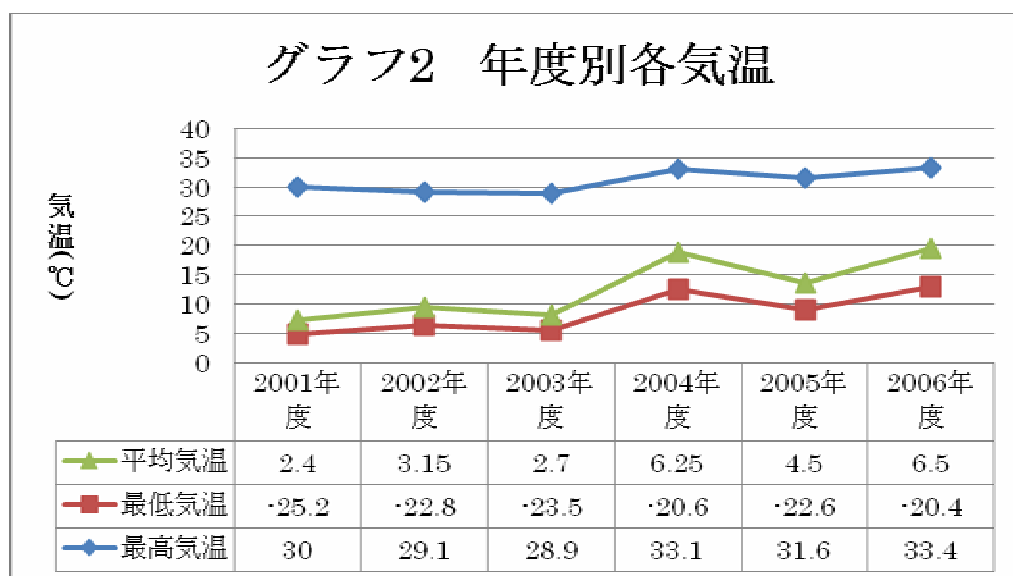
2.2 気温

気温は、8 月には 30℃を上回り、1 月には−20℃を下回ることがあるものの、月別平均気温(グラフ 1)は 4 月~11 月が約 14℃、12 月~3 月が約−5.1℃、年間平均は約 7.6℃と過ごしやすい気候となっている。また、平均気温(グラフ 2)の年度別推移にあまり変化はない

が、最高気温(グラフ 2)と最低気温(グラフ 2)はどちらも上昇傾向にあることが読み取れる。



出典：気象庁 HP(長沼アメダスデータ調べ)



出典：気象庁 HP(長沼アメダスデータ調べ)

2.3 歴史

2.3.1 1857年-1926年

蝦夷地探検の第1人者、松浦武四郎が千歳川・夕張川を調査したことにより南幌の開拓の歴史が始まった。明治19年(1886年)に新潟県から10戸の入植があり、幌向原野に越後

村を開いた。その後、入植団体が相次ぎ、明治 26 年(1893 年)に宮城県から石川邦光が 77 戸 250 人余りを引き連れて入植し、石川部落をつくった。この年、岩見沢村・幌向(現南幌町)村、栗沢村が戸長役場となり、南幌町開基の年となった。明治 42 年(1909 年)には二級村性が実施されている。氾濫を繰り返す夕張川の治水にあたったのが(図 3)、保原元二技師で明治 43 年(1910 年)から工事が完成するまでの 27 年間に夕張川治水事業に尽くした。

2.3.2 1927 年-1970 年

この時期は、戦争、敗戦、さらに高度経済成長の時代へと向かう、実に波乱に富んだ時代だった。畑作一辺倒だった農業も、隣村の栗沢、角田、長沼などの安定した水稻耕作にならい、水田経営へと随時転換していくことになった。主要農業として稲作は幾多の苦難を乗り越えながら今日の姿へと成長していった。一方、南幌町の交通として忘れてならないのが昭和 5 年(1930 年)に開通し、栗山～野幌間を走った夕張鉄道である。町民の足として活躍したが、石炭産業の斜陽により昭和 50 年(1975 年)に完全廃止となった。経済の大きなうねりがうかがえる。昭和 37 年(1962 年)には町制施行となり(図 4)、町名も南幌(みなみほろ)町となった。

2.3.3 1971 年-2006 年

南幌町の町名は”なんぼろ”町と改称され、日本は高度経済成長のピークを迎えることになった。町づくりに貢献した初代町長の本間篤太郎には、名誉町民の称号が贈られた。南幌町総合開発計画を樹立し、暮らしに密着した施設や環境整備など多方面にわたった町づくりが進められることとなった。福祉やスポーツ対策の充実が図られ、平成元年には、はまなす国体のクレイ射撃大会の開催地に選ばれている。平成 4 年(1992 年)には開基 100 年を迎え(図 5)、札幌近郊の緑あふれる環境は、

図 3 夕張川木詰の切り替え工事による新川造成(1889 年)



出典：南幌町 HP

図 4 町施行記念パレード(1962 年 5 月)



出典：南幌町 HP

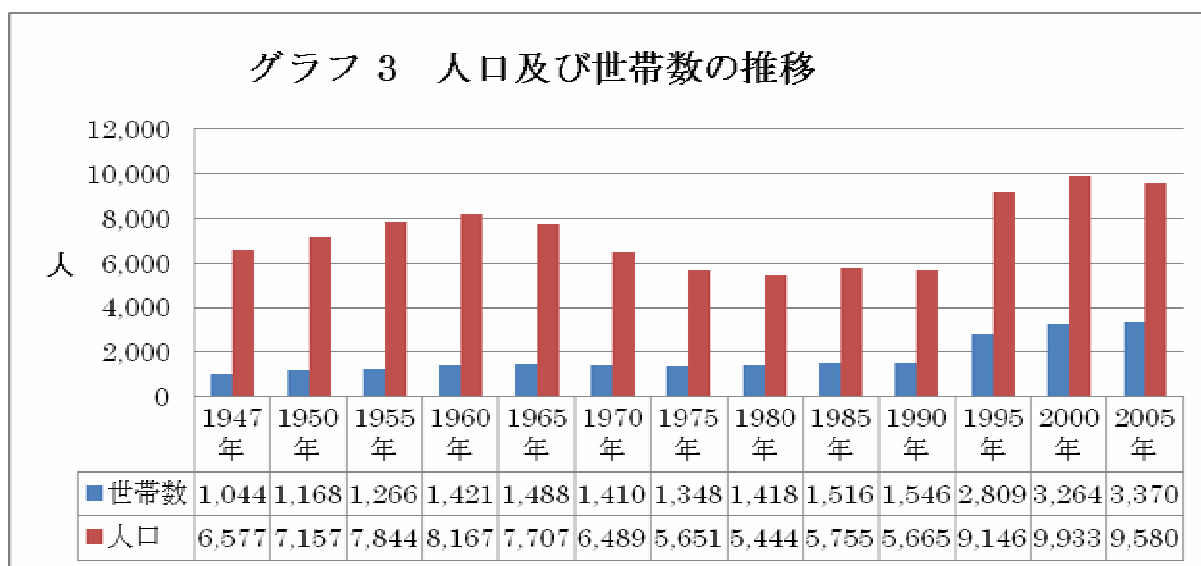
図 5 農村環境改善センターでの南幌町開基 100 年記念祝賀会(1992 年)



出典：南幌町 HP

札幌市のベッドタウンとしてみどり野団地に多くの新町民を迎え、1990年代に人口及び世帯数が爆発的に増加した。平成12年(2000年)には21世紀のまちづくりの指針となる「第4期南幌町総合計画」を策定、「緑豊かな田園文化のまち」を目指し、歩み始めることとなった。

3.人口



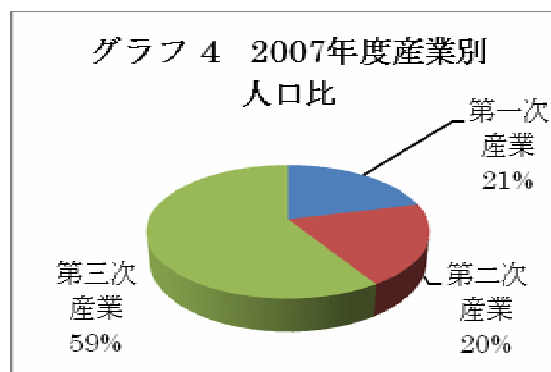
出典：南幌町 HP

1960年以降、人口が減少し続けているのは、それまで盛んであった石炭産業に陰りが見え始めていたことが考えられる。しかし、1990年以降、人口も世帯数も爆発的に増加しているのは、1章の歴史にも記述されているように、都市化が進んだ札幌市のベッドタウンとしてみどり野団地に多くの新住民を迎えたことが大きな要因であると考えられる。

4.産業

4.1 産業別人口

元々、南幌町は農業を基幹産業としてきたが、近年では温泉やキャンプ、カートレースなどのレジャーといった第三次産業の割合が高くなってきている。また「南幌工業団地」及び「晩翠工業団地」という企業をバックアップする地域が設置されたことにより、第二次産業の割合も高くなっている。



出典：南幌町 HP

4.2 農業

4.2.1 生産物

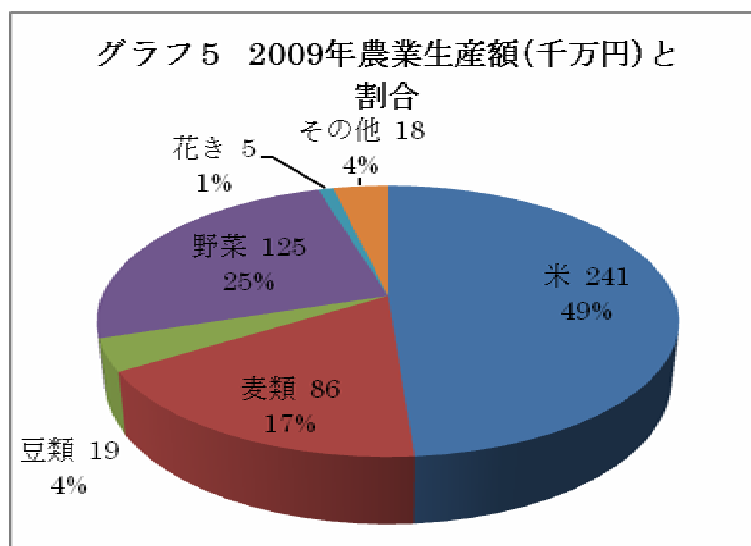
南幌町の農地面積は 5,573ha であり、この値は南幌町総面積 8,149ha の約 68.39%を占めている。また、2009 年度時点で農家人口は 975 人で人口の約 10.8%、農家戸数は 210 戸で世帯数の約 6.23%を占めている。主な生産物は米で、2009 年度の出荷量は 8,734 t である。農業生産額では 49%とほぼ半数を占めている。その品種構成は、「きらら 397」、「ほしのゆめ」、「ななつぼし」といった主食用うるち米が栽培されているが、近年では「おぼろづき」、「ゆめぴりか」が新たな良食用米として期待される品種の栽培も始まった。

他にも根菜類が 7,363 t、小麦が 6,900 t と米に次いで多い。また、野菜類は根菜類の他にも長ねぎやピーマン、ブロッコリー、玉ネギ、キャベツなどが生産されている。中でも、キャベツは特産品となるほど生産が盛んで、2009 年度の販売取扱高は 3,186 t であり、代表的な土産物として南幌キャベツキムチというものもある(図 6)。普通のキムチとはまた違う歯ごたえであり、味は濃厚で辛い。

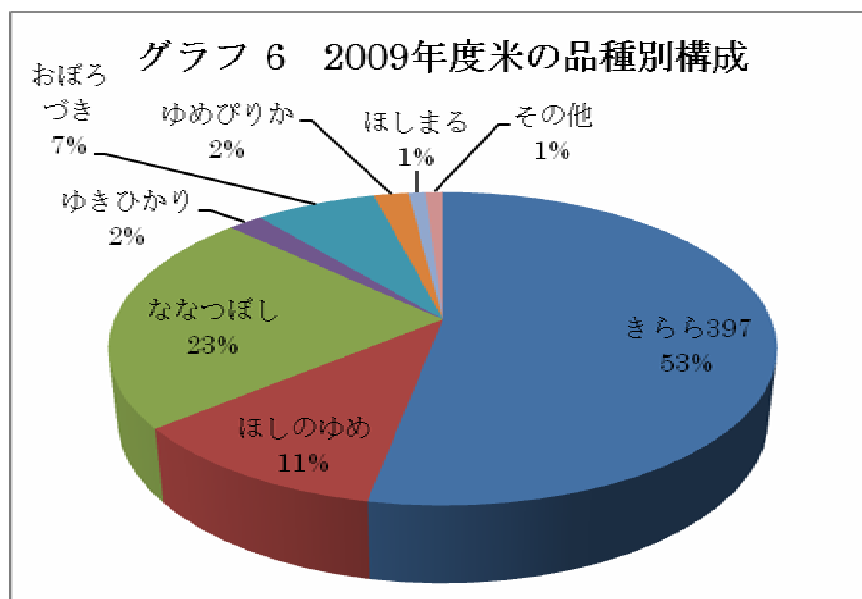
図 6 南幌町の特産品キャベツキムチ



出典：南幌町 HP



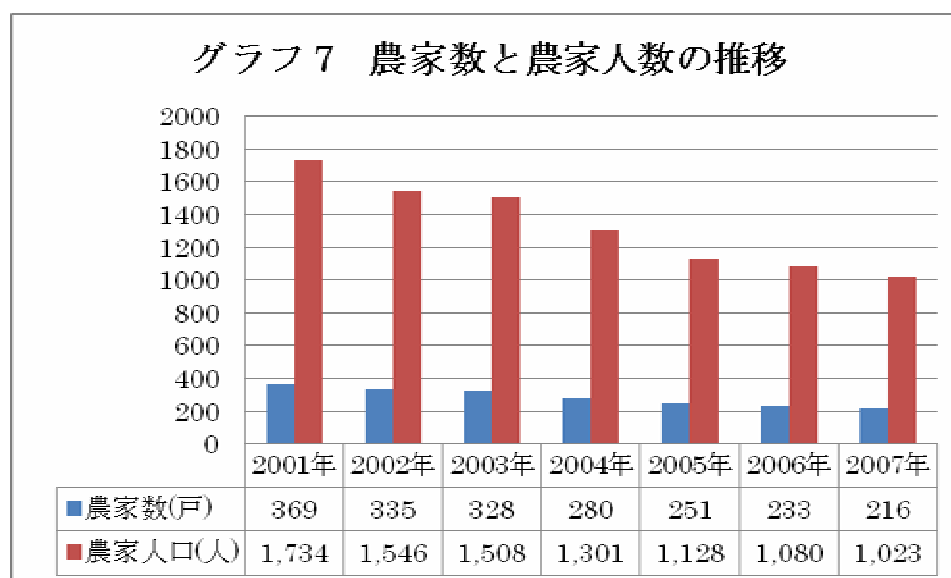
出典：農林水産省 HP



出典：南幌町 HP

4.2.2 農家の現状

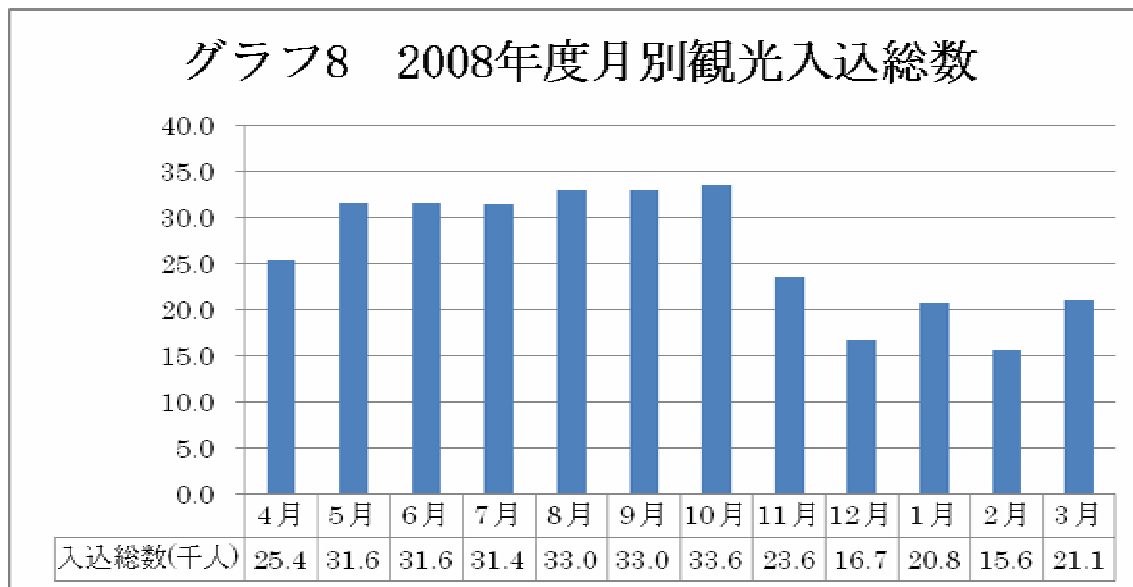
現在、南幌町でも後継者不足や農業従事者の高齢化による農家人口や農家数の減少が問題となっている。これらの問題の解決策として、農家子弟や新規就農者の育成、農村女性が経営や地域社会の担い手として能力を発揮できる環境の整備、高齢農業者の有する知識・経験や技術を生かすことができる活動等の支援といった方法が考えられている。



出典：南幌町 HP

5.観光

5.1 観光客数



出典：北海道観光入込客数調査報告書

このグラフをみると、5月から10月にかけては多くの観光客がきているが、11月以降は急激に観光客数が減少しているのが読み取れる。この理由は、夏の間は涼しい気候のおかげで避暑のために北海道に来る人が多くなるので観光客は増えるが、11月からは雪が積もり始め、主要なレジャーであるゴルフやカートレース、キャンプなどが出来なくなることと、寒さのせいで客足が遠のくことが考えられる。

5.2 観光名所

5.2.1 温泉

南幌町は南幌温泉という大規模な温泉施設がある。日帰り入浴も宿泊することもでき、レストランや宴会場、土産物屋なども充実している。大浴場や露天風呂は源泉をろ過したり薄めたりせずかけ流しであることが自慢である。また、ここでは北海道でも珍しいラドン泉という循環器系疾患や、新陳代謝系疾患に効果がある温泉がある(図7)。

図7 南幌温泉のラドン泉



出典：南幌温泉ハート&ハート

5.2.2 キャンプ

南幌町には市街地から車で 5 分のところに三重緑地公園キャンプ場と三重湖公園キャンプ場の二種類のキャンプ場がある。まず、三重緑地公園キャンプ場(図 8)は、テントサイトが夕張川河川敷を利用した総合運動公園のなんぼろリバーサイド公園に隣接しており、キャンプだけでなく、パークゴルフや野球、サッカーなどのスポーツを併せて利用できる環境にある。また、サイトの周囲は樹木で囲まれてないので見晴らしが良く、晴れた日には東に十勝連峰、西に手稲山、南に恵庭岳や樽前山、北に暑寒別の山々が一望でき、雄大な景色を満喫することができる。次に、三重湖公園キャンプ場は(図 9)、三重緑地公園キャンプ場とは対照的に、テントサイトの周囲が樹木で囲まれた静閑な公園内にあり、特に湖岸に近接しているので、釣りを楽しむことができる。また、幼児を安心して遊ばせることができる噴水のある水遊び場は、特に夏休み期間中は混雑するほど人気で、特に小さな子ども連れの客に人気がある。

5.2.3 南幌町ふるさと物産館「ビューロー」

南幌町ふるさと物産館「ビューロー」(図 10)では、軽食喫茶コーナーや町の観光案内などの情報コーナーのほか、キャベツキムチに代表される様々な特産品を買うこともできる。また、町全体を 22 メートルの高さから 360° 見渡すことのできるパノラマ展望所もある。

5.3 イベント

5.3.1 カートレース

南幌町には南幌リバーサイドカートランドには、全日本大会クラスの大会も開催できる程大規模なカートコースがある。そこではカートをレンタルすることもでき、大人から子

図 8 三重緑地公園キャンプ場テントサイト



出典：南幌町 HP

図 9 三重湖公園キャンプ場の水遊び場



出典：みるくる北海道タウン

図 10 南幌町ふるさと物産館「ビューロー」



出典：南幌町 HP

供まで気軽にモータースポーツに挑戦したり、迫力のあるレースを観戦したりすることもできる。右の写真は南幌チャレンジカップの一場面である(図 11)。

5.3.2 キャベッジマラソン

10 月には南幌町スポーツセンターでキャベッジマラソンと呼ばれるマラソン大会が行われる。このキャベッジマラソンは、健康増進と参加者の交流、スポーツの機会拡大として、南幌町の秋を彩る風物詩となっている。

風を切って走ることにより南幌町内の田園の風景を堪能することができる。

5.3.3 ジッピー・ウィンターフェスティバル

2 月にはジッピー・ウィンターフェスティバルという南幌独自の雪祭りも行われる。そこではスノーフラッグ大会や雪中パークゴルフ大会といったスポーツ大会のほか、スノーモービル体験や、蝦夷蕨の灯り展、アイスキャンドルといった展示物もある。このイベントは、キャンプやカートレースといった南幌町の主要なレジャーができなくなる冬場において、大きな役割を果たしていると考えられる。

参照ホームページ

- ・ 南幌町 HP : <http://www.town.nanporo.hokkaido.jp/>
- ・ 北海道森林管理局 : <http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/policy/system/rekumori/>
- ・ Wikipedia : <http://ja.wikipedia.org/>
- ・ くつろぎの宿 なんぼろ温泉ハート&ハートー南幌湯めぐり : <http://nanporo-onsen.ambix.biz/>
- ・ 南幌リバーサイドカートランド : <http://www.town.nanporo.hokkaido.jp/kankou/kankou/leisure/cart.jsp>
- ・ 北海道公式 HP : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/>
- ・ JA なんぼろ : <http://www.ja-nanporo.or.jp/>

図 11 南幌チャレンジカップの一場面



出典:南幌リバーサイドカートランド

図 12 キャベッジマラソン



出典：南幌町 HP

図 13 蝦夷蕨の灯り展



出典：南幌町 HP

- ・北海道観光入込客数調査報告書：<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/irikomi.htm>
- ・気象庁 HP：<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>
- ・みるくる北海道：<http://www.dotown.jp/>
- ・農林水産省 HP：<http://www.aff.go.jp/>